

新型コロナウイルス感染症専門病院の開設
に係る説明会議事録

日 時：2020年8月21日（金）午後6時から午後7時
場 所：愛知看護専門学校体育館
参加者：33人

(司会)

定刻となりましたので、ただいまより「新型コロナウイルス感染症専門病院の開設に係る説明会」を始めさせていただきます。

初めに本日の主催者側の紹介をさせていただきます。

(松本)

愛知県の新型コロナウイルス感染症対策担当の顧問で医師をしております、松本でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

(鵜飼)

今回の新型コロナウイルス感染症専門病院の所管をしております、愛知県保健医療局健康医務部医療計画課長の鵜飼でございます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

(上田)

新型コロナウイルス感染症専門病院の担当をしております、愛知県保健医療局健康医務部医療計画課担当課長の上田でございます。よろしくお願いいたします。

(司会)

わたくしは、本日司会を担当します、愛知県保健医療局健康対策課課長補佐の近藤と申します。

それでは、本日お配りしております次第に沿って進めさせていただきます。

はじめに、顧問の松本から、ご挨拶申し上げます。

(松本)

愛知県顧問の松本でございます。

説明会の開催にあたりまして、一言ごあいさつを申し上げます。

本日は、皆様には大変お忙しい中、また大変暑い中、このような暑い環境で申し訳ございませんが、ご参加いただき、誠にありがとうございます。

さて、新型コロナウイルス感染症の第二波は、東京から全国へと拡大し、愛知県におきましても、7月15日に16人の感染者を出して以降、増加を続け、7月31日には、過去最多の193人に達するなど、極めて厳しい状況が続いております。

こうした中、8月6日には、愛知県の感染状況等に鑑み、その拡大を防止するため、愛知県独自の緊急事態宣言を発出させていただいたところです。

愛知県では、新型コロナウイルス感染症の入院病床として、現在、70病院で791床を確保しております。また、軽症者等が療養を行う宿泊施設として、東浦町にあります「あいち健康プラザの健康宿泊館」と、名古屋市内の「東横INN名古屋名駅南」を開設しております。あわせて868室を確保しております。

こうした取組みに加えて、医療提供体制の更なる拡充を図るため、岡崎市の協力のもと、岡崎市立愛知病院を活用し、新型コロナウイルス専門病院を開設することといたしました。

専門病院の開設については、第1波のころから、岡崎市と協議を始め、5月に感染者数が落ち着いてきたこともあり、第2波に備えて継続して協議を続けてきたところでありま

すが、この度、岡崎市と大筋で合意に達しましたので、8月17日（月）に、記者発表をさせていただきますところでございます。

病院の開設者は、岡崎市から愛知県へ変更し、愛知県が設置・運営してまいります。病院の開設日は、現在、病院に入院中の患者様について、岡崎市の協力のもと退院又は転院していただいた後に、必要な改修を行ったうえで、10月中旬の開設を目指してまいります。

病床の規模は100床を予定しており、まずは50床で運用を開始し、段階的に増床する予定です。受入対象となる患者様は、軽症の高齢者と中等症の患者様を想定しています。そうすることにより、主に重症患者様を受け入れる大学病院などと役割分担し、大学病院などの負担軽減を図ります。

医師、看護師などの医療スタッフについては、岡崎市や、県内の大学病院、医療機関の協力を得て、確保してまいります。

詳細につきましては、今後、岡崎市始め関係者と詰めていくこととなりますが、専門病院を立ち上げることで、医療提供体制の一層の強化につなげてまいります。

本日お集りの皆様方におかれましては、新型コロナウイルス専門病院について、御理解を賜りますようお願い申し上げます、私の挨拶とさせていただきます。

本日はどうぞよろしくお願いいたします。

（司会）

続きまして、「新型コロナウイルス感染症専門病院」につきまして、医療計画課長の鶴飼から説明させていただきます。

（鶴飼）

医療計画課長の鶴飼と申します。よろしく申し上げます。

私から、患者様の受入れ及び感染防止策について、ご説明させていただきます。

はじめに、なぜ、愛知病院を新型コロナウイルス感染症の専門病院として活用させていただくこととしたのか、御説明させていただきます。

私どもが、岡崎市立愛知病院を新型コロナの専門病院として活用をしたいと、岡崎市にご相談をさせていただいた理由は、何点かございますが、まず、1点目として、元々、平成31年3月まで県立病院であったことから、土地、建物が県の財産であり、新しく建物を整備するより、整備費用を低く抑えることができるとともに、整備に係る期間を短縮できるということがございます。

次に、2点目として、愛知病院は、感染症指定医療機関として、地域の感染症対策を担っていただいているということ。

3点目として、愛知病院には、25床の結核病床があり、陰圧室と言いまして、ウイルスなどが外に漏れないように気圧を低くした病室など、感染症の医療を行う設備が整備されていること、こうした理由から、愛知病院を新型コロナウイルス感染症の専門病院として活用したいと、岡崎市へ要請をさせていただいたものでございます。

次に、どのような患者様を受入れるのか、ということでもあります。

愛知病院では、主に軽症の高齢者や中等症の患者様の入院を想定しております。

愛知県のルールでは、軽症の方は、自宅療養か、軽症者用の宿泊施設に入っていただくこととなりますが、高齢者の場合は、基礎疾患のある方も多く、軽症であっても症状が急変するリスクがありますので、愛知病院の入院対象とさせていただきます。

次に、中等症の患者様ですが、厚生労働省が出しております「新型コロナウイルス感染症の診療の手引き」によりますと、中等症は、息切れがあり、肺炎の所見のあるような人や、呼吸不全があり、酸素投与が必要な人になります。

これより悪くなると、人工呼吸器が必要な重症の患者様になります。

愛知病院では、重症患者様の受入れは行わないこととしておりますが、もし、入院中の患者様の容体が急変して重症化した場合は、まずは、愛知病院で、人工呼吸器などを使用して治療を行い、愛知病院では治療が難しいと医師が判断した場合は、高度な医療が可能な病院へ転院していただくこととしております。

次に、入院患者様の交通手段についてでございます。

入院患者様が、公共交通機関を使って病院に入院をすることはありません。また、歩いて病院へ来るということもありません。必ず、事前にご本人に同意をいただき、車を利用して病院に入っていただくこととしたいと考えております。また、車が使用できない方については、病院の車両などで搬送することを考えております。

また、軽症化して宿泊施設などへ移る場合は、介護タクシーなどを利用し、重症化して、大学病院などに転院する場合は、救急車の利用を想定しております。いずれにしても、患者様の搬送は、必ず車を利用するというところでございます。

患者様の搬送ルートは、南側から正面玄関へ入るルートは、交通量があり、看護学校もありますので、比較的、交通量の少ない北側のルートを利用することを考えております。

次に、入院患者様の療養体制についてであります。

入院に際しては、ご本人に入院にあたっての注意事項等を十分に説明し、本人からの同意をいただいた上で、入院していただきます。

基本は、患者様は病室で過ごすこととなります。検査などで、病院内を移動することもあります。患者様の行動エリアとそれ以外のエリアは厳密に区画をすることとし、患者様は、病院内の認められたエリアに限って移動可能とすることとします。

患者様が、許可なく病院の外へ出ることはできないよう、ゾーニングを徹底してまいりたいと考えております。

なお、生活エリアから排出されるごみは、すべて感染性廃棄物として処分します。感染性廃棄物は、搬出から処分まで、専用の業者により厳密に行われます。

最後に、医療従事者の感染防止対策についてでございます。

患者様の治療にあたる医療従事者が感染をし、院内に感染を広げることは絶対にあってはならないことだと思っております。

病院の治療体制については、感染症の専門医と感染症認定看護師による徹底した事前チェックを行い、感染症防止対策マニュアルを作成します。また、オープン前には、医療スタッフを始め、患者様に直接接することのない事務職員も含めて、作業手順の確認を行う

など、感染防止対策に万全を期してまいります。

最後に、地域に新型コロナウイルス感染症の専門病院ができることで、地域の皆様方には、不安を感じることもあるかと思いますが、病院から地域にウイルスが広がることは、決してありません。

地域の皆様方におかれましては、この新型コロナウイルス感染症専門病院について、是非ともご理解を賜りますようお願い申し上げます。